

九州が一つになることをリードする、日本第二の都市を目指して欲しい。

—— 福岡商工会議所 会頭 河部浩幸氏



河部 浩幸(かわべ ひろゆき)

熊本県生まれ。中央大学法学部卒業。1963年4月九州電気工事(株)入社(1989年12月(株)九電工に社名変更)。2001年代表取締役副社長、2002年代表取締役社長、2007年代表取締役会長就任。

2005年11月に福岡商工会議所副会頭、2007年9月同会頭就任。福岡県商工会議所連合会会長、九州商工会議所連合会会長、日本商工会議所副会頭等財界要職を兼任。

地の利に恵まれて発展した25年

福岡が「アジアのゲートウェイ」を標榜し、早くからアジアとの交流に取り組みながら、都市の発展を描いてきたことは間違っていないと思います。博多港や福岡空港での輸出入において対アジアの占める割合が高いこと、福岡在住の留学生のうちアジア出身者の割合が高いこと、外国領事館が多いことなど、単にアジアとの距離が近いということだけでなく、長年にわたる取組みによる成果が着実に上がっていると思います。

バブル景気崩壊以降、長く景気低迷が続くなかあって、福岡は「元気のいい都市」として、九州一円・アジアから若者を中心に人を集め成長してきました。アメリカのニューズウィーク誌の「最もホットな10都市」や、イギリスのモノクル誌の「世界で最も暮らしやすい都市」14位といった、海外からも高い評価を受けていることは、これまでの取組みが正しかったと言えるのではないのでしょうか。

しかし、これらは地理的に恵まれた福岡の位置による恩恵が大きいことも事実です。農業・漁業などの一次産業が身近にあって新鮮な食

が非常に豊富なことや、地理的に恵まれて港湾や鉄道など交通網が発展するなど、福岡は幸運なことが重なって成長できた側面もあります。

今後の25年を考えた場合、都市間の競争がますます激しくなることが予想されますので、これまで以上に積極的に打って出ることを続けなければいけません。手綱を緩めれば、これまでの福岡の成果や実績は陳腐化して、日本の他の都市に抜かれて、「アジアのゲートウェイ」であることはできなくなります。

また、アジアの国々の成長は著しく、日本や福岡が追いつかれ追い越されている分野も多くあります。アジアでの空港や港湾開発など、意思決定から開発までのスピードは日本と比較にならない程に早く、旧態然としたスローペースの日本はどんどん差をつけられています。

このような問題を解決するには、改革ができる強いリーダーシップや専門的に研究する機関が必要ですし、そのベースになる市民の意識は欠くことの出来ない要素になります。これからも、福岡は産官学と市民が連携して色んな努力を続けていかなければならないと思います

九州が一つになれる所から始めるべし

今年3月11日の東日本大震災の被害を受けて、今後の福岡の役割を考える意味において大切な時期を迎えています。天災や事故など有事に対するリスクに備えて、災害時・災害後においても政治・経済活動が継続して行えるように日本の機能を分散しておくことは重要なことだからです。福岡の地理的位置、過去の地震の実態やその影響が少ないこと、文化・スポーツなどが一通り揃っていること、経済規模などから考えると、九州のなかの福岡が日本第二の都市としての機能を担えるのではないかと思います。大阪は積極的に大阪都構想をPRしていますが、大阪は東京に近すぎると思います。反面、福岡は東京から離れているだけでなくアジアに近いという優位性がありますので、日本第二の都市を担う上で最適なポジションにあると思います。福岡は国に対してこのような将来像をもっとPRしてもいいのではないのでしょうか。

日本第二の都市の実現のためには、九州が一つになって意思統一が図られなくてははいけません。私が道州制の議論に参加する中で実際に各県知事の話を見ると、まだまだ意思統一には時間がかかりそうです。そのため、九州が一つになって出来ることを福岡がリーダーシップをとって実践することが大切だと思います。総合特区などの枠組みを組み合わせる進めるなど、色んな可能性を試みるべきだと思います。

九州が一つになれる試みに、まず観光分野があります。新幹線が全線開通して、最短で鹿児島まで1時間19分、熊本まで33分で行けるようになりました。鹿児島の桜島や霧島、熊本の熊本城や阿蘇など、福岡を拠点に考えても九州の観光ポイントがかなり身近になりました。観光を九州が一つになる産業と捉えることは極めて大切な戦略だと思います。福岡から熊本・大分へ行くルートや、福岡から長崎・佐賀

へ行くルートなど、福岡を拠点として九州各地を巡る観光ルートをいくつか確立して、九州全体が経済的に潤うような仕組みを考えるべきだと思います。

また、一次産業も見直すべき分野だと思います。九州はもともと食に恵まれた地域です。安全で美味しい食を地産地消で賄えるような産業に発展させて、九州各地の農漁業地域で生活が成り立つような制度を作って運用する仕組みが必要だと思います。

「水」も重要な分野です。九州は水資源が豊富で、質の高い飲料水が採取できます。上海や重慶など中国の大都市は著しく発展していますが、水の確保が大きな問題となっています。そのため、飲料水としての輸出は一つ考えられますし、また、水力発電などの発電システム全体を組み合わせた何らかの形で連携を図ることも考えられます。

観光分野で特色を出すべし

先程、観光分野で九州が一つになれると言いましたが、福岡の観光に関しては、どちらかといえば「待ちの観光」で、「攻めの観光」に至っていない部分があり、福岡自身が取り組むべき課題があると思います。

例えば、クルーズ船観光は積極的な誘致活動が不足しているようですし、中国人観光客に対するおもてなしの面も不足しているように感じます。商工会議所でクルーズ船観光客にアンケートを実施しましたが、全体の70%位は満足していないという残念な結果になったことがあります。立地に恵まれすぎて、来訪者に対する工夫が不十分であったことは否定できません。長崎では退職者を上手く活用した観光案内ボランティアが盛んで、市民全体で観光客に対するおもてなし体制を整えながら、地域の活性化を図るという取組みが効果を上げています。リピーターを獲得する意味からも、長崎の

取組みを参考にすべきところは多いように感じます。

海から見た景観も良好とはいえません。インバウンド振興のためにも、ウォーターフロント再整備が急務ではないでしょうか。福岡は海から発展した都市ですし、港の開発余地もまだ大きいと感じますので、港を中心としたまちづくりを進めるべきだと思います。

また、健康に注目が集まるなか、今後は医療観光が重点分野になると思います。九州大学や福岡大学は医療設備が充実していますし、久留米大学、産業医科大学なども含めた医師との連携を図って、枠組みを作るべきではないでしょうか。

そして、福岡はスポーツ文化が根付いていて、野球、サッカー、ラグビー、バスケット、陸上競技などスポーツ全般が非常に盛んですので、スポーツ観光という視点でも可能性が広がると思います。

さらに、福岡では今まであまり PR されて来ませんでしたが、鴻臚館や神社仏閣などの歴史、文化に関わる観光資源となり得るものが多くあるので、もっと掘り起こして欲しいと思います。

ウォーターフロントを再開発するべし

博多湾の再開発が必要だと先程触れましたが、もう少し詳しく述べたいと思います。オーストラリアのシドニー湾が博多湾によく似ているということで、今年2月に視察を行いました。海という資源を最大限に活用しているように感じました。世界中から人が港に集まっていて、素晴らしいヨットハーバーがあったり、楽しげに食事している海辺の洒落たレストランがあったり、官民一体で再開発されたウォーターフロントエリアは見事なものでした。博多湾には能古島や志賀島があってロケーションは素晴らしいので、港近くにホテルや結婚式場

などを作って、博多湾クルージングが名物になるような仕組みを作るのはどうかと思います。海から見るもう一つの福岡は素晴らしい観光資源になるはずです。

須崎埠頭は現状倉庫が集積していますが、大手企業の誘致を更に進めることで穀物基地になるし、再開発することで観光スポットにもなり得ると思います。また、ベイサイドプレイスでイルミネーションを実施していますが、港に人を集まるためには一企業だけでなく連携した取組みが必要不可欠です。休日になると交通渋滞がひどくなるようではいけませんし、交通アクセスの改善は喫緊の課題だと思います。

アジア、福岡・九州の若い人材の交流と育成を

福岡は、東京、大阪に次いで、留学生が多い都市ですが、アジア留学生の就職先が少なく、せっかくの特徴を活かしきっていません。地場企業にとってアジア展開は重要な戦略となりますので、もっと積極的に採用する必要があると思います。特に、地場大手企業には、自由で大きな発想のもと、5年から10年のタイムスパンでアジア留学生を採用し人材育成するような先導的動きを期待しています。アジアの優秀な人材を取り込んで上手く活用できれば、民間外交ができる人材として大いに活躍してくれるのではないのでしょうか。

アジアのなかでも、中国、韓国は今後も非常に重要なパートナーになっていくと思いますが、交流が進んでいる韓国との関係を更に深めることが大切だと思います。日本商工会議所は、年1回、日韓両国の会頭が集って首脳会議を行います。そこでは、お互い助け合おうという信頼関係が既に構築されていると強く感じることができます。昨今、日韓双方向のパートナーシップは強まっていて、相互関係を大切にしようという機運は間違いなく高まっています。過去の悲しい歴史がありながら、我々世代でさ

え、そのような意識の変化が確実にありますので、若い世代は更に相互理解が可能だと思えますし、もっと交流を深めて欲しいところです。韓国の学生は非常に優秀で礼儀正しい人が多いように思います。徴兵制度によって愛国心が強いのかもしれないし、北朝鮮の存在によって緊張感が高いのかかもしれませんが、日本の若者に比べて、国や地域を思う意識が高い学生が多いように思います。

不景気やゆとり教育という背景もあってか、日本の若者は安定志向が強かったり、海外留学にあまり目を向けていなかったり、内向きで大胆さが欠けているような印象を受けます。国というよりも個人のことで精一杯のような気がします。だからこそ、福岡に現場レベルで韓国などアジア諸国と福岡・九州の若い人材が交流し育っていくような環境ができれば、必ず地域は発展すると思います。

そのためには、地場企業そのものがレベルアップする必要があります。福岡・九州の日本人学生も東京に就職するのではなくて、九州に就職して頑張りたいと思わせるような魅力ある企業や産業が育ち、雇用面などでも工夫する必要があります。地域が連携して優秀な人材を確保して育成していかなければなりません。

安心安全なまちづくり

福岡は一通りものが高いレベルでそろっている素晴らしい都市です。しかし、人が集まり活発な交流があり今後も発展し続けることを考えると、根底となる必要不可欠な取り組みである安心安全なまちづくりが十分でないと感じます。

県警と市民が一緒になって、暴力団排除や飲酒運転撲滅などに取り組んでいますが、大きな成果を得るまで至っていませんし、性犯罪や窃盗事件なども数多くあります。安心安全なまちづくりは、行政や財界のリーダーが市民と一緒に

なって取り組んでいかなければならない大きな課題です。

福岡全体が一丸となって取り組むという機運が高まり一定の効果が上がれば、観光、企業誘致など色んな分野で大きな成果が期待でき、国内外から多くの人が集まるもっと素晴らしい都市になるのではないのでしょうか。

インタビュー日:2011/8/3 文責:URC 栗原